

【水の作文大賞】

水の大切さを知って

熊本県 熊本信愛女学院中学校 一年 尾田 雛子

阿蘇にある白川水源に家族で出かけた。白川水源の水はにごってなく、透明でとてもきれいだった。

水源の近くに、和紙をつくれる所があった。そこで私は、初めて和紙をつくった。和紙は完成するまでに、原料を煮たり混ぜたり洗浄したりと、水を使う工程がいくつもあった。だから、和紙を作るには、水が非常に重要な働きをすることが分かった。

白川水源では毎分およそ六十トンもの水が湧いているそうで、実際に水源の池の底を見ると、砂の動きで水がどんどん湧いているのが分かった。きれいな水がたくさんあるこの場所だから和紙作りができるのだ。

今年、同じように水が必要とする工場が菊陽町にできた。この工場では半導体の製造のために大量の水を必要とするので、熊本の地下水を守ることができるのか不安に思う住民もいるというニュースを見た。水が足りなくなると、私達の生活はどのように変わるのだろうか。

水が不足している発展途上国では、雨水を貯めておいたり、遠くの水源地まで、汲みに行ったりしている所もある。また、同じ水を再利用して食事をしたり、食器を洗ったり洗濯したりしているところもあった。

調べてみると、私達が生活に使う事ができる水の量は地球上にある水のほんのわずかだということだと分かった。

これから、地球温暖化や世界の人口の増加により、水不足が深刻になると心配されている。

私と同世代の子どもが水質汚染のため、病気になったり、遠くへ水を汲みに行くために学校へ通えないということに胸が痛くなり、気軽に水を利用できる私とは違いに驚いた。

私達が、その様な子ども達の将来が少しでも良くなる様にするためには何をしたらよいのか考えたい。

私達、中学生が少しでも地球上の水不足で困っている人達のためにできることは何だろう。私は、水質汚染をすすめないよう努力をすることだと思う。例えば、油をいらない布などでふきとり、排水口に流さないこと、海や川のゴミをできるだけ拾いきれいにすることだと思う。

これから、私は地球環境や発展途上国の人々のこと、住んでいる熊本の地下水のことも関心を持ち続けたい。そして、未来の地球に住む人々ができるだけ同じ様に水を使うことができる世界をつくるために、私ができることは小さなことでもやってみよう。

菊陽町にできた工場と地下水についてさらに調べたところ、工場を作った企業と熊本県が一緒に地下水を守る取り組みを行っていることが分かった。農家の方々に協力してもらい、地下水の源となる水田の面積を広げている。私はこの取り組みを応援し見守っていきたい。一人ひとりができる小さな事の積み重ねと、このような大きな取り組みが豊かな地下水を保つていくのに必要だと思う。